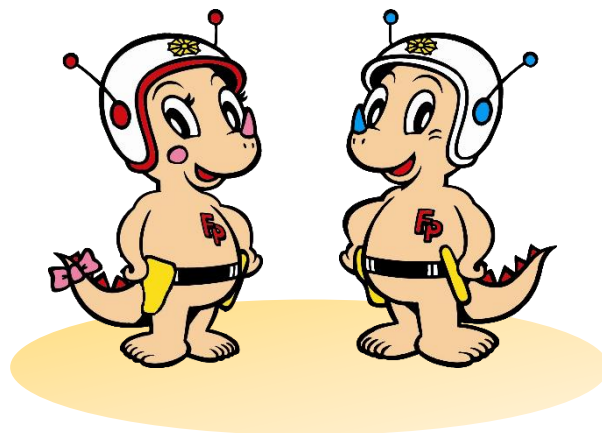


福井県の治安情勢 [4月末現在]

(令和7年4月末数値は暫定のものを含む。)



令和7年5月3日「 特殊詐欺撲滅アンバサダーによる被害防止広報 」



— 福 井 県 警 察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は799件で、前年同期に比べて63件（7.3%）減少

検挙件数は560件で、前年同期に比べて121件（17.8%）減少

検挙率は70.1%で、前年同期に比べて8.9ポイント下降

		R4	R5	R6	R7.4 末
福井	認知件数（件）	2,664	2,840	2,972	799（-63）
	検挙件数（件）	1,799	1,631	2,295	560（-121）
	検挙人員（人）	1,051	1,183	1,290	344（-35）
	検挙率（%）	67.5	57.4	77.2	70.1（-8.9）
全国	認知件数（件）	601,331	703,351	737,679	232,134（+10,205）
	検挙件数（件）	250,350	269,550	287,273	91,268（+5,751）
	検挙人員（人）	169,409	183,269	191,826	60,577（+2,467）
	検挙率（%）	41.6	38.3	38.9	39.3（+0.8）

※1 表中の（ ）内の数字は、前年同期比（以下同じ。）

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数（当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。）の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は11件で、前年同期に比べて20件（64.5%）減少

検挙件数は9件で、前年同期に比べて20件（69.0%）減少

【認知件数】 (単位：件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
殺人	5	6	4	1(+1)
強盗	1	2	4	0(-1)
放火	2	3	3	0(±0)
不同意性交等	7	10	33	5(-16)
略取・誘拐	2	0	4	0(-1)
不同意わいせつ	11	29	21	5(-3)
合計	28	50	69	11(-20)

【検挙件数】 (単位：件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
殺人	5	6	4	1(+1)
強盗	1	1	5	0(-1)
放火	2	3	3	0(±0)
不同意性交等	7	10	33	4(-16)
略取・誘拐	2	0	4	0(-1)
不同意わいせつ	12	28	21	4(-3)
合計	29	48	70	9(-20)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は375件で、前年同期に比べて98件（20.7％）減少

（単位：件）

	R4	R5	R6	R7.4 末
車上ねらい	160	81	139	20(-11)
自転車盗	310	542	381	125(+15)
万引き	562	513	748	150(-62)
置引き	142	143	92	14(-15)
器物損壊	156	206	153	39(-8)
空き巣	43	58	44	8(-10)
忍込み	20	20	37	3(-20)
住居侵入	61	55	41	16(+13)
合計	1,454	1,618	1,635	375(-98)

(4) 主な施策

- 県民の防犯力向上に向けて、犯罪情報等を県警アプリ「ふくいポリス」等によりタイムリーに発信
- 「福井防犯力向上チャレンジ事業所」との継続した取組を推進
- 防犯ボランティア等との合同パトロール等を通じた県民の防犯意識の高揚
- 万引き被害の未然防止に向けた量販店等との連携強化



事業所との清掃活動や自転車鍵かけ広報



学校・駅駐輪場における車両防犯診断

2 子どもを犯罪から守る対策

(1) 子どもに対する声掛け事案等

ア 相談等件数

相談等件数は 37 件で、前年同期に比べ 7 件 (15.9%) 減少 (単位：件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
小学生以下	55	63	65	19(-6)
中学生	41	45	36	13(+2)
高校生	56	53	46	5(-2)
その他	1	5	1	0(-1)
合計	153	166	148	37(-7)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は 18 件で、前年同期に比べて 11 件 (37.9%) 減少

(単位：件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
検挙	16	33	37	5(-8)
指導・警告	69	68	60	13(-3)
合計	85	101	97	18(-11)

ウ 主な施策

- 防犯ボランティアと連携した通学路の重点的な警戒・パトロールや不審者情報等のタイムリーな発信
- 子どもの危険回避能力を向上させるため、防犯教室等を開催
- 声掛け等の前兆事案による被害の未然防止・拡大防止のため、行為者に対し、先制・予防的な検挙や指導・警告を実施



福井ユナイテッドFCの選手との見守り活動



新一年生を対象とした子供110番の家の説明

(2) 児童虐待事案の認知対応状況

ア 認知対応件数等

認知対応件数は133件で、前年同期に比べて23件（14.7%）減少

児童通告人員は141人で、前年同期に比べて8人（5.4%）減少

検挙件数は6件で、前年同期に比べて1件（20.0%）増加

		R4	R5	R6	R7.4 末
認知対応件数（件）		521	528	426	133(-23)
児童通告	人員（人）	539	449	447	141(-8)
	身体的	59	59	42	13(+2)
	性的	0	2	1	0(±0)
	ネグレクト	16	31	26	6(-7)
	心理的	464	357	378	122(-3)
	うち面前DV	333	260	282	97(-5)
検 挙 件 数（件）		17	21	25	6(+1)

イ 主な施策

- 児童相談所など関係機関との連携
- 児童の安全確保を最優先とした対応



児童相談所との連絡会



児童虐待防止に向けたX（エックス）の活用による広報啓発

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は71人で、前年同期に比べて3人（4.4％）増加

（単位：人）

	R4	R5	R6	R7.4 末
犯罪少年	82	168	212	50(-15)
触法少年	19	40	39	21(+18)
ぐ犯少年	0	1	0	0(±0)
非行少年総数	101	209	251	71(+ 3)

(2) 主な施策

- 少年の規範意識の向上のため、学校と連携した非行防止教室（ひまわり教室）を実施
- SNSに起因した犯罪等の加害者、被害者にさせないため、ターゲティング広告等、工夫を凝らした広報啓発を実施



学校と連携した非行防止教室



犯罪実行者募集情報（闇バイト）
の危険性に関する広報啓発

4 DV・ストーカー等の人身安全関連事案対策

(1) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は50件で、前年同期に比べて21件(29.6%)減少

検挙件数は33件で、前年同期に比べて3件(10.0%)増加 (単位:件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
相談等	190	203	229	50(-21)
検挙	80	112	102	33(+ 3)
保護命令	3	6	8	1(±0)
警告	85	88	92	16(-15)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は36件で、前年同期に比べて11件(44.0%)増加

検挙件数は13件で、前年同期に比べて8件(160.0%)増加 (単位:件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
相談等	122	90	104	36(+11)
検挙	20	31	31	13(+ 8)
禁止命令・警告	42	37	57	22(+14)

(3) 主な施策

- DV・ストーカー等の人身安全関連事案の被害者の安全を確保するため、行為者の検挙、禁止命令等の行政措置等を徹底
- 防犯力向上のため、企業・団体等における防犯講座等を実施
- ストーカー行為者の更生のため、医師や臨床心理士等と連携し、治療に関する助言を行うなど、更生に向けた支援を実施



企業の従業員・学生等を対象とした防犯講習会



病院職員を対象とした護身術訓練

5 匿名・流動型犯罪グループによる資金獲得犯罪への対策

(1) 特殊詐欺

ア 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は20件で、前年同期に比べて13件（約185.7%）増加
- ・ 被害金額は約9,431万7千円で、前年同期に比べて約4,181万5千円（約79.6%）増加

【被害の特徴】

- ① 被害者は、65歳以上の高齢者の割合が多い（20件中14件、70.0%）
- ② 手口別では、オレオレ詐欺が最も多く（20件中12件、60.0%）、次いでキャッシュカード詐欺盗、架空料金請求詐欺が多い（20件中いずれも3件、15.0%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」が多い（20件中11件、55.0%）、次いで「キャッシュカード窃取型」が多い（20件中3件、15.0%）

	R4		R5		R6		R7.4 末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	3	7,000	7	19,080	11	58,819	12(+10)	74,207(+72,207)
預貯金	8	5,315	5	14,892	2	1,993	1(+1)	0(±0)
架空料金請求	10	12,558	14	24,284	6	104,161	3(+1)	1,710(-46,560)
還付金	3	2,291	2	995	2	1,914	0(±0)	0(±0)
キャッシュカード詐欺盗	2	2,500	1	1,091	5	3,929	3(±0)	4,400(+2,168)
金融商品詐欺	0	0	0	0	0	0	1(+1)	14,000(+14,000)
合計	26	29,664	29	60,342	26	170,816	20(+13)	94,317(+41,815)

※ 近年県内で発生している手口のみ記載

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙り、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

イ 検挙状況

特殊詐欺検挙件数は6件で、前年同期に比べて1件（20.0%）増加

	R4	R5	R6	R7.4 末
特殊詐欺検挙件数(件)	16	21	9	6(+1)
助長犯罪検挙件数(件)	41	43	42	16(+6)
合計(件)	57	64	51	22(+7)

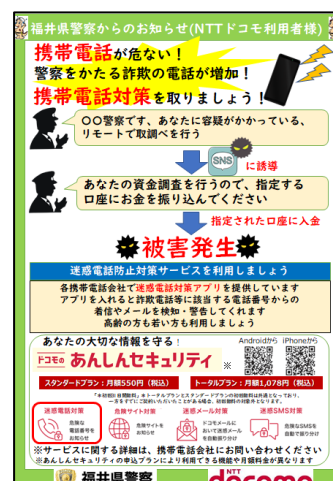
※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

ウ 主な施策

- 特殊詐欺被害の防止に向けて、高齢者等の防犯意識を高揚させるため、被害防止に関する出前講座等を実施
- 特殊詐欺の犯人からの電話を直接受けることを防止するため、国際電話の利用休止を促すなどのハード対策を推進
- 特殊詐欺の被害を水際で阻止するため、金融機関やコンビニエンスストア等と連携し、利用者等への声掛けや注意喚起等を促進
- 「だまされたふり作戦」や他の都道府県警察との連携による特殊詐欺犯行グループ壊滅に向けた取締りを実施
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得等の特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行に利用された携帯電話の利用停止や預貯金口座の凍結など、犯行ツールの無力化対策を推進



巡回連絡を通じた注意喚起



通信事業者と作成した広報チラシ

(2) SNS型投資・ロマンス詐欺

ア SNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数及び被害額（被害額の千円未満は四捨五入）

SNS型投資・ロマンス詐欺とは、SNS等を通じて対面することなく、交信を重ねるなどして関係を深めて信用させ、金銭をだまし取るもので、認知件数は8件、被害額は約3億8,406万5千円

【被害の特徴】

- ① 被害者は40歳代が3件（37.5%）で最も多いが、幅広い世代が被害に遭っている
- ② 被害のきっかけは「SNS」5件、「マッチングアプリ」3件
- ③ 交付形態別では「振込」4件、「暗号資産」3件、「現金手交」1件

	R5		R6		R7.4 末	
	件数 (件)	被害額 (千円)	件数 (件)	被害額 (千円)	件数 (件)	被害額 (千円)
投資詐欺	6	77,366	13	242,750	1(-2)	31,500 (-45,400)
ロマンス 詐欺	6	96,283	8	190,218	7(+7)	352,565 (+352,565)
合計	12	173,649	21	432,968	8(+5)	384,065 (+307,165)

イ 検挙状況

	R5	R6	R7.4 末
検挙件数（件）	0	3	1(+1)
検挙人員（人）	0	3	1(+1)

ウ 主な施策

- SNS型投資・ロマンス詐欺被害を未然に防止するため、高齢者をはじめとした幅広い世代に対して、ターゲティング広告等、工夫を凝らした広報啓発を推進
- 被害の未然防止に向けた金融機関等との連携
- SNS等のアカウントや暗号資産の口座など犯行ツールに関する捜査による、SNS型投資・ロマンス詐欺犯行グループ壊滅に向けた取締り



福井県金融機関防犯協会の開催



働き世代に対する防犯講習

6 組織犯罪対策

(1) 暴力団

ア 検挙状況

検挙人員は14人で、前年同期に比べて5人減少（26.3%）

（単位：人）

	R4	R5	R6	R7.4 末
刑法犯	26	38	22	5(-4)
特別法犯	27	16	23	9(-1)
合計	53	54	45	14(-5)

イ 主な施策

- 暴力団の壊滅に向けた取締りを実施
- 暴力団を公共事業や民間取引から排除するなど、社会一体となった暴力団排除活動を推進



福井県暴力追放センター理事会



大相撲会場における暴力団排除の広報活動

(2) 薬物事犯

ア 検挙状況

検挙人員は 28 人で、前年同期と同数

(単位：人)

	R4	R5	R6	R7.4 末
覚醒剤	43	50	42	20(+3)
うち少年	0	0	0	0(±0)
大麻	27	28	38	4(-6)
うち少年	3	2	6	1(+1)
その他	7	5	6	4(+3)
うち少年	1	0	0	0(±0)
合計	77	83	86	28(±0)
うち少年	4	2	6	1(+1)

※少年とは 20 歳未満の者

イ 取締り

覚醒剤取締法違反(所持)事件(R7.2)

大麻取締法違反(所持)事件(R7.3)



押収した覚醒剤結晶粉末



押収した乾燥大麻

ウ 主な施策

- 少年の規範意識の向上のため、学校等と連携した非行防止教室等を実施
- 覚せい剤や大麻など、薬物の需要の根絶と供給の遮断に向けた取締りと広報啓発を推進



中学生を対象とした薬物乱用防止教室



動画による大麻乱用防止広報

(3) 来日外国人犯罪

ア 検挙状況

検挙件数は13件で、前年同期に比べて46件（78.0%）減少

検挙人員は12人で、前年同期と同数

	R4	R5	R6	R7.4 末
検挙件数（件）	97	82	135	13(-46)
刑法犯	66	54	109	13(-41)
特別法犯	31	28	26	0(-5)
検挙人員（人）	63	50	56	12(±0)
刑法犯	36	32	44	12(+4)
特別法犯	27	18	12	0(-4)

イ 主な施策

- 関係機関・団体と連携し、外国人コミュニティへの犯罪組織等の浸透を防止
- 出入国在留管理庁と連携した不法滞在者の取締りを推進

7 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受案件数

相談件数は902件で、前年同期に比べて37件（3.9%）減少

（単位：件）

相談区分	R4	R5	R6	R7.4 末
詐欺・悪質商法	956	1,127	1,445	442(-71)
違法・有害情報	58	55	46	14(-13)
名誉棄損・誹謗中傷	89	69	136	33(-15)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	406	232	219	135(+46)
迷惑メール	242	292	236	98(-20)
クレジットカード番号盗取等	202	219	348	110(+5)
その他	189	78	153	70(+31)
合計	2,142	2,072	2,583	902(-37)

(2) 検挙状況

検挙件数は 41 件で、前年同期に比べて 26 件 (173.3%) 増加

(単位：件)

	R4	R5	R6	R7.4 末
不正アクセス禁止法違反	3	1	7	7(+5)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	12	3	3	0(±0)
ネットワーク利用犯罪	52	66	76	34(+21)
詐欺	24	30	25	9(+6)
児童買春・児童ポルノ法違反	3	2	7	8(+7)
県青少年愛護条例違反	3	3	0	2(+2)
わいせつ物頒布等	0	0	0	0(±0)
その他	22	31	44	15(+6)
合計	67	70	86	41(+26)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

(3) 主な施策

- 民間の自主的な被害防止対策を促進するため、関係機関等と連携した研修会を開催
- 被害の防止や規範意識の向上のため、サイバー防犯ボランティアと連携した若年層に対する広報啓発活動を実施



福井県医師会における
サイバーセキュリティ対策研修会



学校と連携した情報リテラシー講習

8 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

ア 交通死亡事故の特徴等

- 死者のうち、高齢者が占める割合が高い 8人中6人 (75.0%)
- 高齢運転者が第1当事者(原付以上)となる割合が高い 7件中3件 (42.9%)
- 夜間の発生が多い 8件中6件 (75.0%)

【交通事故発生状況】

	R4	R5	R6	R7.4 末
総事故件数(件)	20,366	21,582	21,574	7,403(+ 271)
人身事故件数(件)	939	986	964	335(+ 29)
死者数(人)	27	20	23	8 (±0)
傷者数(人)	1,063	1,133	1,100	368(+ 22)
重傷者数(人)	191	200	213	68(- 8)
物損事故件数(件)	19,427	20,596	20,610	7,068(+ 242)

※ 全国の交通事故死者数(R7.4 末)は810人で、前年同期に比べて32人増加

【年齢層別・当事者別死者数(R7.4 末)】

(単位：人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29 歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
30 歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
40 歳代	0	1	0	1	0	0	0	1(+ 1)
50 歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
60～64 歳	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
65 歳以上	3	0	0	3	1	2	0	6(- 1)
75 歳未満	1	0	0	1	0	0	0	1(- 2)
75 歳以上	2	0	0	2	1	2	0	5(+ 1)
合計	4	1	0	5	1	2	0	8(±0)

イ 主な施策

- 交通事故抑止に資する交通指導取締りを推進
- 関係機関・団体と連携した交通安全対策を推進
- 交通安全教育等による交通ルールを周知

(2) 高齢交通弱者対策

ア 高齢者（65 歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者は6人で、前年同期に比べて1人減少

高齢者の死者数は全体の約8割（8人中6人）

	R4	R5	R6	R7.4 末
全死者数（人）	27	20	23	8(±0)
高齢死者数（人）	20	14	18	6(- 1)
構成率（％）	74.1	70.0	78.3	75.0(-12.5)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行中・自転車乗用中）の死者は3人で、前年同期に比べて1人減少

(単位:人)

	R4	R5	R6	R7.4 末
高齢交通弱者の死者数	12	4	10	3(- 1)
歩行中	9[8]	3[3]	7[7]	2[2](-1[-1])
夜間歩行中	3[2]	1[1]	4[4]	2[2](±0[±0])
自転車乗用中	3	1	3	1(± 0)

※[]は反射材非着用

ウ 主な施策

- 事故遭遇のおそれがある者に対する保護・誘導活動、反射材普及活動等の高齢交通弱者対策（自転車・歩行者）を推進
- 交通安全教育等による交通ルールを周知
- 関係機関・団体と連携した交通安全対策を推進



高齢者に対する反射材普及活動



自転車利用者に対する交通ルールの周知

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者（原付以上）となる交通死亡事故

交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故は3件（前年同期比±0件）で、全体の約4割（42.9%）を占めている。

（単位：件）

	R4	R5	R6	R7.4 末
交通死亡事故件数	23	20	20	7(- 1)
高齢運転者が第1当	11	10	8	3(±0)

イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）（R7.4 末）

（単位：件）

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29 歳以下	2	0	0	2	0	0	0	2(+ 2)
30 歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(- 2)
40 歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(+ 1)
50 歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(- 1)
60～64 歳	0	0	0	0	0	0	0	0(- 1)
65 歳以上	3	0	0	3	1	0	0	4(- 1)
75 歳未満	2	0	0	2	0	0	0	2(±0)
75 歳以上	1	0	0	1	1	0	0	2(- 1)
合計	7	0	0	7	1	0	0	8(±0)

ウ 主な施策

- 運転免許証の自主返納しやすい環境整備等を推進
- 高齢者を対象とした参加・体験型の交通安全教育を推進
- 高齢者の自宅訪問を通じた交通安全指導を推進



自主返納出張窓口の開設



体験型資機材を活用した交通安全教育

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転を伴う人身事故（第1当事者が原付以上）

飲酒運転を伴う人身事故は5件で、前年同期に比べて1件増加（+25.0%）、死亡事故の発生なし

	R4	R5	R6	R7.4 末
人身事故件数（件）	9	20	9	5(+ 1)
死亡事故件数（件）	1	0	0	0(±0)
構成率（%）	11.1	0	0	0(±0)

イ 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は42件で、前年同期に比べて6件減少（-12.5%）

	R4	R5	R6	R7.4 末
検挙件数（件）	119	175	183	42(-6)

ウ 速度違反の取締り

速度違反の検挙件数は1,040件で、前年同期に比べて1件減少（±0%）

	R4	R5	R6	R7.4 末
検挙件数（件）	10,741	9,665	4,839	1,040(-1)

エ 横断歩行者妨害違反の取締り

横断歩行者妨害違反の検挙件数は273件で、前年同期に比べて235件減少（-46.3%）

	R4	R5	R6	R7.4 末
検挙件数（件）	858	1,216	1,633	273(-235)

オ 主な施策

- 飲酒運転等の悪質・危険な違反に重点を置いた取締りを推進
- 飲酒運転根絶に向けた広報啓発活動を推進
- 通学路や生活道路における交通指導取締りを推進



夜間における飲酒検問



横断歩道における交通指導取締り